

# 事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	カモシカ食害対策事業			事業コード	0664
所属コード	142000	課等名	林政課	係名	林政係
課長名	高橋 山雄			内線番号	6054
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/> 公の施設	<input type="checkbox"/> 大規模公共事業	<input type="checkbox"/> 補助金	<input type="checkbox"/> 内部管理

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要 (旧総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系 (旧)	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	活力ある農林業の振興	コード	1
	基本事業	生産基盤の整備	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 6 款 2 項 2 目 カモシカ食害対策事業 (013-01)			
特記事項 (H26)				
事業期間	<input type="checkbox"/> 单年度	<input checked="" type="checkbox"/> 单年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度 年度
根拠法令等 (H26)	文化庁文化財補助金交付規則、文化財保存事業費及び文化財保存施設整備費 関係補助金交付要綱、天然記念物食害対策費国庫補助要綱			

### (2) 事務事業の概要

造林した幼齢木を、天然記念物であるカモシカの食害から守るため、忌避剤の塗布を行う。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

昭和 40 年代後半から、ニホンカモシカによる幼齢木の食害が拡大し、林家からの要望があつたため。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

林業の低迷により、林家数や新規造林が大幅に減少しており、今後も少しづつ減少していくと考えられる。

## 2 事務事業の実施状況 (Do) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

### (1) 対象（誰が、何が対象か）

5年生以下の幼齢造林木

### (2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 見込み	26年度 実績
A 5年生以下の人工林面積(盛岡地域)	ha	19.2	20.05	27	31	22
B						
C						

### (3) 26年度に実施した主な活動・手順

森林組合への委託により、幼齢造林木に忌避剤を塗り食害から防いだ。

国庫及び県補助の関係事務を行った。

### (4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 防除面積(盛岡地域)	ha	19.2	20.05	27	31	22
B						
C						

### (5) 意図（対象をどのように変えるのか）

幼齢造林木がカモシカによる食害を受けないようにする。

林家が経済的打撃を受けないようにする。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A カモシカ食害により被害を受けた人工林面積(盛岡地域)	□上げる □下げる ■維持	ha	0	0	0	0	0
B カモシカ食害による被害額(盛岡地域)	□上げる □下げる ■維持	千円	0	0	0	0	0
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①	千円	707	743	975	1162	1162
	②	千円	0	0	0	0	0
	③ 方債	千円	0	0	0	0	0
	④ 般財源	千円	354	372	488	599	599
	⑤ の他( )	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	1061	1115	1463	1761	1761
人件費	⑥ ベ業務時間数	時間	200	200	200	200	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	800	800	800	800	800
計	トータルコスト A+B	千円	1861	1915	2263	2561	2561
備考							

### 3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

幼齢造林をカモシカの食害から守ることで、生産性の向上に結びついている。

② 市の関与の妥当性

林業の低迷により、林家を取り巻く環境は厳しく負担を求める状況ではない。また、食害対策の対象が特別天然記念物であることから、カモシカと造林木と双方の保護を目的としているため、市の関与は妥当である。

### ③ 対象の妥当性

5年生以上の造林木は、概ね生長点がカモシカに食べられない位置まで高くなっているため、現状のままでよい。

### ④ 廃止・休止の影響

カモシカの食害により、林家が経済的な打撃を受け、人工林面積が減少する。

#### (2) 有効性評価（成果の向上余地）

新規造林はほぼ守られている状況にあり、成果が向上する余地はほとんどない。

#### (3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

市内の林家に対して、毎年、盛岡市の広報で周知を行っているため、受益機会は適正である。

#### (4) 効率性評価

防除方法や忌避剤の見直しにより、効果をあげられる可能性がある。

## 4 事務事業の改革案（Plan）·····

#### (1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	農林業の振興	コード	21
	小施策（推進項目）	生産基盤の整備	コード	2

#### (2) 改革改善の方向性

現状において成果は十分であるため、今後も継続していくことが重要である。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

一般財源を含む予算の確保が必要である。

**5 課長意見・・・・・・・・・・・・**

(1) 今後の方針

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

この事業を始める前の昭和50年代は、激害で苦労していた。事業が始まり、被害対策がポリネットの被覆から、現在のヤシマレントの忌避剤塗付に代わって被害がゼロになっている。この事業のありがたみを忘れてしまいがちだが、やらなければ被害が出ることを忘れてはならない。また、近年、激増しているニホンジカの対策にも有効であり、これ以上、林業の環境を悪化させてはいけないと思っている。（継続が必要）